

# 週報

2020年度 教会標語

「生活の真ん中に礼拝する心を！」

## <先週の説教から>

### 『黙示録⑦ーガラスの海の岸に立ち』

出エジプト記 40:34~38 ヨハネの黙示録 15:1~8

今日から15章に入ります。ここから黙示録のクライマックスです。なぜなら1節に「七人の天使が最後の七つの災いを携えていた。これらの災いで、神の怒りがその極みに達するのである」とあるからです。いよいよ「最後の」災いであり、神様の怒りが「極み」に達して行くのです。そして16章には有名な「ハルマゲドン」も登場してきます。

ただ、そのような災いへと向かう時に、今日の箇所はこれらの災いに遭う前、神様によってあらかじめ救い出される人々について教えられているのが2節から4節です。

即ち「わたしはまた、火が混じったガラスの海のようなものを見た。更に、獣に勝ち、その像に勝ち、またその名の数字に勝った者たちを見た。彼らは神の豎琴を手にして、このガラスの海の岸に立っていた。」です。

彼らはここで何をしていたのでしょうか？ 彼らが手にしている「豎琴」とは当時の伴奏楽器です。従って、彼らは讚美歌と一緒に声を併せて歌っていたのです。どのような歌か？ それが「神の僕モーセの歌と小羊の歌」とあります。ここに大事な点があります。「小羊」とはイエス様のことであり、救われた彼らがイエス様のことを賛美するのはとてもよく分かりますが、同時にモーセの歌を歌っている点が、この出来事の意味をよく表現してくれているのです。つまり、モーセと言えば、奴隷状態にあったイスラエルの民をエジプトから導き出した人物ですが、そのエジプト脱出を決行した際に、それを阻もうと後からエジプト軍が追いかけて来て、とうとうイスラエルの民は海辺にまで追い詰められたのでしたね。そこでモーセが神様に祈ると、何と海の水が分かれて、民の前に「道」が表れたのでした。そこを民が渡り切ることによって救われたのでした（＝後から来たエジプト軍はその水が元に戻って、海の中に飲まれて死んでしまった）。まさに《紅海を渡る》です（今の新共同訳聖書では「葦の海」となっていますが）。昔見た映画『十戒』でも、最も手に汗を握った場面だったのでないでしょうか？ その時の喜びを歌った歌がおそらくここで言われているモーセの歌であろうと言われています（正しくは、出エジプト記15章にある『海の歌』のことです）。なぜなら、今日の箇所にも「海」が関係しているからです。

この箇所です。前提となっていることは、この世から神様がおられるみ国へと向かう時に、人は「海」を渡っていかな

なければならないのだということなのです。日本でも、古くから、人は死んだら三途（さんず）の川を渡ると言われてきました。それと関係があるのかは分かりませんが、人は死んで、神様の元に行く時に海を渡ると考えられているのです。ただし、神様を信じる者は「ガラスの海」を渡るのだということなのです。荒い波が逆巻く中を必死になって泳いで渡らなければならないとか、その海を渡る舟の代金（＝六文銭？）を用意しなければならないなどということは一切必要ないと。なぜならば、もはやその海はガラスで出来ていると。つまり、歩いて渡れる、そこにはちゃんと「道」が備えられているという意味なのです。従って、救われた人たちが立っている「ガラスの岸」とは、この海の内側であり、海を渡り切って神様の側にいる＝真の安らぎを与えられている状態だと言い得るのです。それが「獣に勝ち、その像に勝ち、またその名の数字に勝った者たち」に与えられる祝福だと。これは私たちにもちゃんと与えられる祝福であり、《永遠の命》と呼ばれるものなのです。

故に、彼らは3節で「全能者である神、主よ、あなたの業は偉大で、驚くべきもの。諸国の民の王よ、あなたの道は正しく、また真実なもの。」と賛美しています。ここに「あなたの道」とあるのは、これまでの神様が導いてきて下さった「道＝人生」のことであり、あの紅海に直面したイスラエルの民と同じように、もはや行く先が見えない、切羽詰まってしまった時にも、最もふさわしい「あなたの道」を示してくださった、備えてくださったことへの感謝なのです。ここに神様を信じるの意味と祝福とが示されています。以上のことは、伝道者パウロがコリントの信徒への手紙一、13章10節で語っている言葉と同じです。即ち「あなたがたを襲った試練で、人間として耐えられないようなものはなかったはずで、神は真実な方です。あなたがたを耐えられないような試練に遭わせることはなさらず、試練と共に、それに耐えられるよう、逃れる道をも備えてくださいます。」と。

その際、この「ガラスの海」は「火が混じった」と言われています。この「火が混じる」とは《血の色が混じっている》という意味だとされています。これはイエス様がその十字架の血によってガラスへと作り変えてくださったという意味だと採れるのです。イエス様の十字架による罪の赦しと復活を信じる者が与えられる恵みなのです。まさに「わたしは道であり、真理であり、命である。わたしを通らなければ、だれも父のもとに行くことができない」（ヨハネ福音書14:6）の言葉通りなのです。

2021年 2月21日

日本キリスト教団 上尾合同教会

牧師 武田 真治

〒362-0041 上尾市富士見2-3-33

TEL&amp;FAX 048-771-6549

<http://www.ageo-church.org/>